

2020年

新春市長インタビュー



茅野市長 今井 敦

今年の一文字「楽」

色々と大変なこともあります。とにかく楽しくやろうよという、市民の皆さんに伝えたいメッセージ。

——昨年1年間を振り返り、どんな年でしたか。

おかげさまで市長に当選をさせていただきまして、慣れないながらも皆さんに助けていただきながらなんとかやってきた、そんな年だったのかなと思っています。いい年でありました。

——昨年の茅野市で特徴的な出来事は何ですか

大きな火事があったというのが一つ記憶に残っています。もう一つは台風19号という大きな台風が来たんですけれども、他の地域と比べますと大きな被害もなく乗り切れたというのは幸いだったと思います。

います。良いこともあれば残念なこともあったかなと思います。茅野市全体としては皆さん活発にいろいろな活動をしてきています。茅野市の良さは市民の皆さんがとにかく元気だということでありますので、そういう意味では昨年1年間、元気な1年間だったかなと思います。

——ちの観光まちづくり推進機構が3年目を迎えます。今後の行政との関わり方をどのように考えますか。

基本的には市と別の独立した組織ですので、直接的に私がどうこうしろと言えませんが、とはいえ

市が強力にバックアップして作られた団体であるので、しっかりとサポートしていくつもりでいます。古民家の話が出ていますが、その事業のうちの観光まちづくり推進機構(以下DMO)という形になってしまっているところもあります。しかし、実は従来からの事業もやっていますし、それをより深化させた形でやっている事業もいくつかあります。そういった活動をつかりしているということを市民の方々に伝えていくということとがまず大事だと思いますし、茅野市の職員とDMOの職員がもっと交流をするということも大事だと思います。情報の共有をしていくとともに同じ方向に動いていくという体制づくりをしていきたいなと思っています。

——茅野市の玄関口でもある茅野駅。その西口の整備についてはどのように考えていますか。

駅舎、商業ビル含めて西口、かなり建物古くなっています。利便性もよくないことを指摘されているところ。まずは最終的にこういう形になるといいねという大きな絵を描こうとしています。それはいきなりできるものではありませんので、第一段階、第二段階、第三段階と段階を踏みながら、



茅野駅西口周辺

——昨年のまちづくり懇談会のお話の中でもありましたポイント制度や地域通貨の導入についてのお考えは。

時代の大きな流れとしてキャッシュレス化という流れがあつて、

「楽」みんなで 楽しく まちづくり

その流れに乗りながら地域通貨とポイントを掛け合わせてまちづくりに使いたいということです。それ自体でまちが大きく変わるわけではなく、このツールを使うことで様々なことに使えますので、いわゆるインフラを作りたいということです。

これを導入すると翌日から変わりますというイメージで語られる場合が多いのですが、10年くらいかけて作り上げていきたいと思っているものです。10年たちますと私も68歳になります。高齢者の方も普通にスマートフォンを使っているといった状態が来ますので、これから一つ一つ作り上げていきたいと考えています。そのためには地域通貨というものが介在することによって地域の経済活動が活性化するというところもあるでしょうし、人々のつながりが活性化すると、地域が活性化することにもなっていくでしょうし、その仕組み作りをしていきたいので、そのツールの一つをまず作るということです。

——昨年は火事、台風といった災害が多く発生しました。台風19号の襲来などの教訓や今後の対策についての考えは。

基本的には防災、減災について



は、ハード面は限界があると感じています。たとえば上川を例に挙げますと、護岸をきちんとする、河床を整備するということはなかなかはいけないことですが、やはり一定の限界があります。ですので自分の身は自分で守るというそれぞれの意識がとても大事になってきます。行政としては、ハード面についてはやれることはやっていきますが、市民の皆さんにはご自身でいざという時の準備をしていただくということ、ご近所の皆さんで体制をとれるようにしていくこと、その支援を行政がしていくという形にしていきたい。これから重要になっていくと思います。

市民の皆さんに行政ができるこ

とには限界があるということをご理解いただき、市民の方たち自らが自分の身を自分で守るということとを徹底してもらえようと思っています。台風19号の際には、区長さん方にはご心配いただき、自主的に公民館を開いていただけの場所もありましたので、非常にありがたいことだなと思っています。

——自治体の力を維持するためにも、少子高齢化についてはどのように考えていますか。

できるだけこの地域から、外に出て戻ってきてくれる、留まってくれる、他の地域から来てもらえらるといった要素を作っていく。若い世代の方々にこの地域にできるだけ住んでもらう形を作りたいと思います。それをやらないと経済活動とか地域活動というものはある程度の人がいないとどちらも回っていきません。若い人たちに残ってもらうことは高齢者の方々のためにもなりますので、その辺の循環、仕組み作りをしつかりやっついていかないといけないなと思います。

この問題は何か一つをやれば若い人が残ってくれるということにはなりませんので、いろいろな要素の掛け合わせになると思います。

——市民の皆さんに一言

今年1年間、市民の皆さんにお世話になります。私は皆さんと本音でお話をしたいと思っています。時には厳しいこともいいたくありませんが、それはみんなに考えを共有して茅野市をより良くしていきたい思いからでありますので、その辺のところは大目に見ていただいて、1年間お付き合いいただければありがたいと思っています。皆さんからいろいろなご意見を頂きながら、ともにワンチームになるような茅野市にしていけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。